

かながわ信用金庫が取り組む産官金連携による企業支援

# 「よろこず相談承り」の精神で

## あらゆる企業の課題に対応

### 地域初のインフラ点検ロボットの実証実験をサポート



今

年5月、かながわ信用金庫と神奈川県綾瀬市の協力の

もと、同市の特殊機械製造業者の株式会社サーフ・エンジニアリングが、ガス管等のインフラ点検に用いるロボットのの実証実験を行った。同市でロボット開発に関わる実験が行われたのは初めて。多くのマスコミが注目する中、実験は成功。今後の技術の実用化について期待が寄せられている。

は、かながわ信用金庫・経営サポート部による企業支援の取組みとサーフ・エンジニアリングへの支援事例についてレポートする。

2014年4月、かながわ信用金庫は、売上増強や販路拡大など企業の様々な経営上の課題に対しソリューションを提供する専門部署として「経営サポート部」を設立させた。支援内容は、創業支援、補助金申請助言サービス等の経営課題解決のサポートや、調査分析サポート、ビジネスマッチング、事業承継など多岐にわたる。

「経営サポート部のベースとなっているのは、当金庫の平松廣司・理事長の経営理念である『よろこず相談承り』信用金庫という考え方は。近年、営業店の業務が増えている中で、担当者が社長と企業

経営についてじっくり話し合う時間を取るのが難しくなっています。こうした状況において企業の持つあらゆる悩み・課題について相談を受け、営業店だけでは対応しきれない課題解決についてもお手伝いすることを目的に、本部署を立ち上げました。(堀田典彦・常務理事)

経営サポート部の担当者は7名。営業店がトスアップした企業の課題について、経営改善につながるアドバイスや補助金などの制度の紹介、専門家派遣などのソリューションを提供している。

支援先の業種は飲食店、小売店、製造業、建設業など多業種に及び。提携機関は中小企業診断士団体などを中心に、県内外17ほどの機関と協力関係を築いている。県の専門機関の活用により製造技術の特許取得を支援では、冒頭で紹介したサーフ・

エンジニアリングへの支援事例について見ていこう。

2014年11月、かながわ信用金庫は綾瀬支店を開設した。同支店は地域企業との接点づくりのため、オープンに先駆け2013年9月頃から渉外担当者による訪問活動を実施。その訪問企業の一つが、サーフ・エンジニアリングであった。

同社は、インフラの保守・点検等で用いる特殊機械の製造業者。図面の作成から、製造・加工・納品までを一貫して行えるという強

みがあり、ガス管の敷設工事に関する特殊機械の製造などを行っていた。

綾瀬支店の担当者は社長から事業内容について話を伺う中で、同社が販売先の依頼でガス管の点検で使用するためのロボット開発に取り組んでいること、その技術開発について悩みを持っていることを聞き出した。

ロボットの用途は、人の手では作業が難しい高所にあるガス管や曲り配管などの点検を行うこと。ガス管の表面に傷や破損がないか

を確認する機能のほか、動画撮影ができる機能も搭載。どんな場所でも登って点検ができることから、『のぼるくん』と名付けられ、開発が進められていた。

「開発で課題となっていたのは、安定してガス管を登れるようにするための技術開発でした。渉外担当者に専門知識があったわけではありませんが、訪問の度に社長に技術について質問し、『磁石を使ってはどうか』『ドローンを使うって引き上げてはどうか』というように様々なアイデアを提案していました。社長がそうした担当者の姿勢を評価してくださり、信頼関係の構築につながったようです」(小池俊介・経営サポート部長)

ある日、社長から担当者に「技術開発に成功したので、知的財産権として技術を保護するにはどうすればいいか」との連絡があった。早速、担当者は経営サポート部に連絡。連絡を受けた小池課長は県内で知的財産権制度の普及・啓発活動を行っている一般社団法人・神奈川県発明協会に相談し、

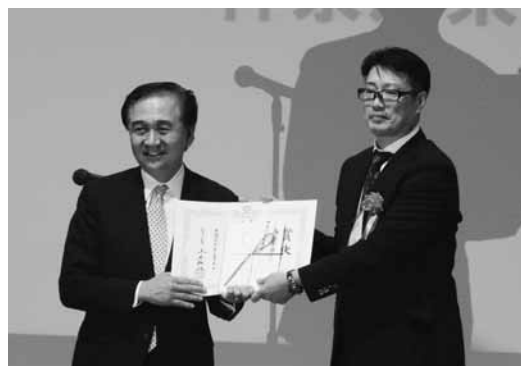
同協会の専門家とともに社長を訪問。特許取得の目的についてヒアリングを行ったうえで、申請方法等のアドバイスをを行った。その結果、技術に新規性が認められ、特許取得が実現した。

行政や地公体のサービスを活用して営業支援を実践

「ヒアリングを行う中で、社長は特許で技術を保護するだけでなく、技術をビジネス化していきたいと考えていることが分かりました。そこで、行政や地方公共団体が提供する支援制度を活用し、販路開拓についても支援を行っていきました」(栗原祐幸・経営サポート部長)

まず、資金面では経済産業省のものづくり補助金の活用を提案。申請書作成支援などが奏功し、2014年9月に採択された。

営業面についてはよろこず支援拠点の専門家派遣サービスや、公益財団法人神奈川産業振興センター(KIP)の販路開拓支援を活用。専門家の支援のもと、自社サイトや企業案内の作成など、企業



「かながわビジネスオーデイション2015」授賞式の様子



綾瀬大橋に取り付けたインフラ点検ロボット「のぼるくん」